海外の話題

アナス・ホリビリス（Annus horribillis）

農林中金オーストラリア　MD 澤田　隆一

アナス・ホリビリスは「ひどい年」を意味するラテン語の言い回しで、1992 年にイギリス女王のエリザベス2世が戴冠 40 周年記念スピーチでこの表現を使ったことで有名となった。日本では 2018 年に小池知事がこの言葉を使った。

豪州経済は 2020 年 6 月に2四半期連続でマイナス成長となり、1990 年以来の景気後退に陥った。1997 年のアジア危機、2000 年の IT バブル崩壊、2008 年の世界金融危機を見事に乗り切り史上最長期の景気拡大を謳歌していたが、ついにコロナの世界的な大流行により行く手を阻まれた。

当局は迅速な政策でこれに応えている。財政余裕度が高い連邦政府は GDP の 4%を超える雇用安定・一時金支給などの超大型財政刺激策を実施。年金基金から非課税での一部資金の引出しも認められ、中央銀行は政策金利を 0.25%まで引き下げた。加えて、連邦・州政府は継続的なインフラ投資により景気下支えするスタンスを明確にしている。今後の豪州経済を展望する中で、コロナ感染抑止の動向が最重要ポイントであるが、個人的には以下の点に注目している。

① 州境 / 国境閉鎖。各州は独自に州境を全部ないしは一部閉鎖している中で、現時点でクリスマスまでの閉鎖解除を目指している。だが、各州の足並みも完全に一致している訳ではない。西豪州はこれを拒否し、クイーンズランド州は閉鎖解除に際して 28 日間の感染者ゼロという厳しい条件を主張している。国境に至っては、ニュージーランドを例外として閉鎖解除の議論さえ開始されていない。カンタス航空は先の決算発表で少なくとも来年7月までは国際線は再開されないとの慎重な見方を示した。

② 返済猶予中の貸出。豪州の銀行は3月にコロナ問題への金融支援策として住宅貸出や中小企業向け貸出の一時的な返済猶予を開始したが、6 月末時点で全住宅貸出残高の 11%、全中小企業向け貸出の 17%、全貸出の 10%にあたる 2,740 億豪ドル（約 21 兆円）の貸出の返済が滞っている。既に4大銀行は、将来的な回収不能に備えて一定の引当金積み増し対応を行っているものの、今後の景気や住宅市場動向次第で不良債権になる予備軍があることは確かだ。

③ 住宅市場。先月末に私が入居しているアパートの一室がオークションにかけられたが、売買は成立しなかった。今も売却中の看板が残っている。コロナ禍により不動産取引量は大幅減少、価格も弱含んでいる。ある国内大手銀行は、シドニーとメルボルンの住宅価格は今後 13 ～ 15%調整余地があり、2021 年後半の底入れを予想している。新規住宅貸出に対する銀行の審査も今後増々厳格化するとの観測もあり、貸出の返済猶予期限後の 2021 年前半が正念場となりそうだ。

④ 中国との関係。輸出の4割を中国に依存する中で、前回の寄稿で中国と豪州の綱渡り的な関係を述べたが、事態は悪化している。豪州はコロナ発生源の独立調査を主張、また、中国を念頭に入れたと思われる外資買収規制強化を実施。一方、中国は、人種差別ありとして豪州への渡航について注意喚起、食肉や大麦に対して高額関税を賦課、更には豪州産輸入ワインの反ダンピング調査の開始を発表。万が一中国が鉄鉱石輸入に触るようなら、豪州へのインパクトは計り知れない。

2020 年は豪州にとってアナス・ホリビリスと言える。課題も多いが、次の中長期的な経済成長に向けての足固めの機会とも考えられ、豪州が直面する課題をどのように克服し、“Lucky Country”であり続けるのかをしっかりとウォッチしていきたい。

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます